

神石高原町農業振興ビジョン

～「源流の里」で“赤と黒のプロジェクト”推進～



平成 24 年 2 月

広島県神石高原町

＜ 目 次 ＞

◆序章	ビジョンの策定について	1
1	ビジョン策定の趣旨	
2	ビジョンの位置づけ	
3	目標年次	
◆第1章	神石高原町の農業の現状と課題	2
1	神石高原町農業の現状	
2	神石高原町農業の課題	
◆第2章	神石高原町農業の目指す方向	4
1	神石高原町農業の将来像	
2	神石高原町農業の基本目標	
3	ビジョンの施策体系	
◆第3章	ビジョンの施策展開と実現に向けた取り組み	7
	基本目標Ⅰ 担い手が牽引する産地の育成・強化	
	（1）地域特性を生かした園芸作物と和牛の振興	
	（2）産直市場の売上向上	
	（3）有機農業・環境保全型農業の推進	
	基本目標Ⅱ 生産力の高い担い手の育成・強化	
	（1）認定農業者・集落法人の経営力強化	
	（2）新規就農者の確保・育成	
	（3）6次産業化の推進	
	基本目標Ⅲ 次世代につなげる農地の活用	
	（1）農業生産基盤の整備	
	（2）農地の流動化の推進	
	（3）農業公社の機能強化	
◆第4章	赤と黒のプロジェクト推進の概要	10
1	担い手を核とした「神石高原 ^豊 トマト」の産地拡大	
2	「集落法人等が牽引する販売額2億円のピオーネ産地」へ	
3	神石高原和牛の里再構築プロジェクト	

序章 ビジョンの策定について

1 ビジョン策定の趣旨

神石高原町は、平成16年11月5日に、油木町、神石町、豊松村、三和町の4町村が合併し、誕生しました。農業振興ビジョンは平成15年3月に町村合併を見据えて、神石郡広域農業振興ビジョンを策定し、「食と農を中心とした新しいまちづくり」を基本理念に掲げ、これまで実現に向けて農業振興に取り組んできました。トマト、ぶどうの園芸産地化や和牛のブランド化を進めるとともに、産直市場での農産物の販売も盛んで、地域活性化のエネルギーとなっています。

しかし、農業従事者の高齢化や担い手の不足、耕作放棄地の問題など農業を取り巻く環境は厳しさを増している中、一方では安心・安全な食の提供や農村環境の維持・保全の重要性が高まっています。

こうした中、国においては2010年（平成22年）3月に新たな「食料・農業・農村基本計画」を策定し、「国民全体で農業・農村を支える社会」の創造を目指すことが必要であると、戸別所得補償制度の導入などが実施されています。

また、広島県では2010年（平成22年）12月に「2020広島県農林水産業チャレンジプラン」が策定され、「産業として自立できる農林水産業の確立」を重要目標とし、「作ったものを売る」から「売れるものを作る」生産体制の確立を目指しています。

このビジョンでは、今までの成果を引き継ぎながら、新たな農業の流れや農業者および消費者のニーズに対応した神石高原町の農業の将来像を示し、その実現に向けて取り組みを行うために策定します。

2 ビジョンの位置づけ

このビジョンは本町の最上位計画である「神石高原町長期総合計画」の分野別計画の性格を有するものです。

国の「食料・農業・農村基本計画」（2010年（平成22年）3月）や広島県の「2020広島県農林水産業チャレンジプラン」（2010年（平成22年）12月）を踏まえつつ、「神石郡広域農業振興ビジョン」を発展的に継承し、本町の地域特性を活かした新たな将来像を示し、施策の総合的かつ計画的な推進を図るものです。

3 目標年次

2011年度（平成23年度）を初年度として、2020年度（平成32年度）を目標年次とします。

また、中間年次に当たる2015年度（平成27年度）には農業を取り巻く情勢の変化及び施策の点検・評価を踏まえ、見直しを行います。

第1章 神石高原町農業の現状と課題

1 神石高原町農業の現状

本町の人口は、昭和25年の38,813人を最高に、それ以降減少傾向が継続し、平成22年には10,362人となっています。65歳以上の高齢者比率は昭和35年の9.9%に対し、平成17年には42.8%となり、著しい高齢化の進行を示しています。農業就業人口では平成7年が3,107人で、平成22年には2,062人となっています。

本町は、緑豊かな自然環境、清涼な気候、自然の豊かさを利用して農業を行ってきました。良質な米の産地であるとともに、こんにゃく、神石高原和牛は古くからのブランド産地であり、新しくトマト、ぶどうが産地となってきました。ほうれんそうや椎茸などの栽培に加え、農産物の直売活動も盛んで、「道の駅さんわ182ステーション」「油木百彩館」「神石高原まるごと市場」はもとより、生産者独自で、インショップや消費者と生産者の顔が見える関係での直接販売なども行われています。

農業集落法人は13法人設立されており、集落としての農地の維持や、担い手や農業公社を利用して農地の維持がなされている一方で、過疎化や高齢化が進み耕作放棄地や小規模高齢化集落が増加する現状があります。

このため基幹産業の農林業と観光産業の振興、集落機能の維持・再生、定住・交流人口の増加等により、地域の活力を向上させることが急がれています。

2 神石高原町農業の課題

大規模な農地集積や効率的生産も困難な中山間地域の中で、将来にわたり安定的に生産活動を継続していくためには、産地としての出荷量の確保が大きな課題となります。産地としての確立されたイメージを消費者に伝えるとともに、「神石高原町の農産物」として安心・安全な農産物を提供するという生産者の「生命や環境の破壊を伴わない農業」に対する認識を高め、直売施設を利用した農産物の販売や6次産業の推進などによる神石高原町全体のイメージアップが課題です。

(1) 産地の育成・強化

▶ トマトの産地ブランドの持続的発展

平成10年のトマト団地の造成などの効果により12haの栽培面積があったものの、現在では9.1haに減少しています。県内産地が縮小する中、一定量を確保していますが、生産者の高齢化により産地の担い手に不安があります。

▶ ぶどうの産地化の推進

神石高原のぶどう（ピオーネ）として市場や消費者から評価を受けはじめているものの、生産者は高齢で栽培面積も零細です。3つの集落法人が0.5haから1ha程度栽培していますが、成園期を迎えていないことなどから他

法人への波及に至っていません。また、高齢の生産者がリタイアした後の園地が放棄されている状況も出てきています。

▶ **神石高原和牛の産地の再構築**

生産者の高齢化が進み、次世代での和牛飼育が困難な状況があります。旧広島牛改良センター跡地を活用した「和牛の里」団地の整備により飼育頭数の維持が可能となりましたが、今後の事業展開などしくみ作りが急務となっています。

▶ **産直市場における農産物の売上向上のための神石高原町ブランド化**

道の駅さんわ 182 ステーション、油木百彩館、神石高原まると市場の産直市場での農産物等販売高は開設以来伸びてきましたが、現在、横ばい傾向にあります。消費者からは「神石高原産」として認知されていますが、生産者の高齢化などから今後の安定供給などに課題が見受けられます。

(2) 担い手の育成・強化

▶ **地域ぐるみで農地を守る集落法人化の限界**

集落法人化については、農地集積と設立の可能性の高い地域から推進してきましたが、徐々に地域ぐるみ型の集落法人設立が困難となっており、小規模な集積にとどまっています。一定規模の確保や収益性の高い園芸作物の導入による持続可能な経営体の育成ができていません。

▶ **担い手農家の育成強化の推進**

小規模農家が多数を占め、農業の継続や農地保全などが困難になっている地域が見受けられます。産直市場への農産物販売や園芸作物の導入による担い手農家の育成が求められています。

(3) 農地の活用

▶ **農業生産基盤の整備と農地の流動化**

農業者の高齢化等による農業生産の縮小とともに、農地の利用率が低下し、耕作放棄地が増加することで、周辺農地や景観などへ悪影響を与えています。収益性の高い園芸作物を導入するには効率的な農地利用が重要であり、農地の流動化とともに、地域の実情に応じた農地の利活用の取り組みが必要となっています。

▶ **有害鳥獣被害防止**

猪、猿などの有害鳥獣による農作物被害が深刻化し、生産意欲の減退につながっています。有害鳥獣被害により耕作放棄地となる農地も見受けられるため、被害防止のための施策が重要となります。

▶ **農業公社の機能強化**

水稻を中心とした受託作業をしている農業公社の活動は、農地の荒廃防止に一定の成果があります。畜産農家や集落法人等と連携した飼料稲収穫作業に取り組んでいますが、農業公社として新規就農者の研修受け入れや営農指導などの機能強化が求められています。

第2章 神石高原町農業の目指す方向

1 神石高原町農業の将来像

神石高原町の豊かな自然を活かしつつ、農地を維持し集落を活性化しながら、生活に必要な所得を確保していくために、都市住民との交流の中で消費者の支援も期待しつつ、「人と自然が輝く高原の町」を創っていく必要があります。

このため、本町では、町政運営の基本である「神石高原町長期総合計画」において「地域資源を生かした活力ある産業と交流のまちづくり」を推進項目の一つとして位置付け、国県や町独自の支援策を実施しながら、町全体としての「神石高原町ブランド」を確立していきます。

とりわけ、自然が豊かで山々に蓄えられた湧水がでる水源のある本町は「源流の里神石高原」として小規模高齢化集落対策やまちづくりに取り組んでいます。

農業においても、高冷地の気候を活かした高原野菜と、伝統ある和牛の育成により、自然循環機能を増進し、安全で良質な農産物に対する消費者の需要に応える農業を目指します。

2 神石高原町農業の基本目標

神石高原町の農業の将来像を実現するために、取り組むべき農業振興の方向を示した基本目標を次のとおり定めます。

基本目標Ⅰ 担い手が牽引する産地の育成・強化

源流の里として神石高原町の地域特性を生かした園芸作物と和牛の振興、高原野菜のイメージアップ、農業者と消費者相互の理解を図りながら、産地の育成強化を推進します。

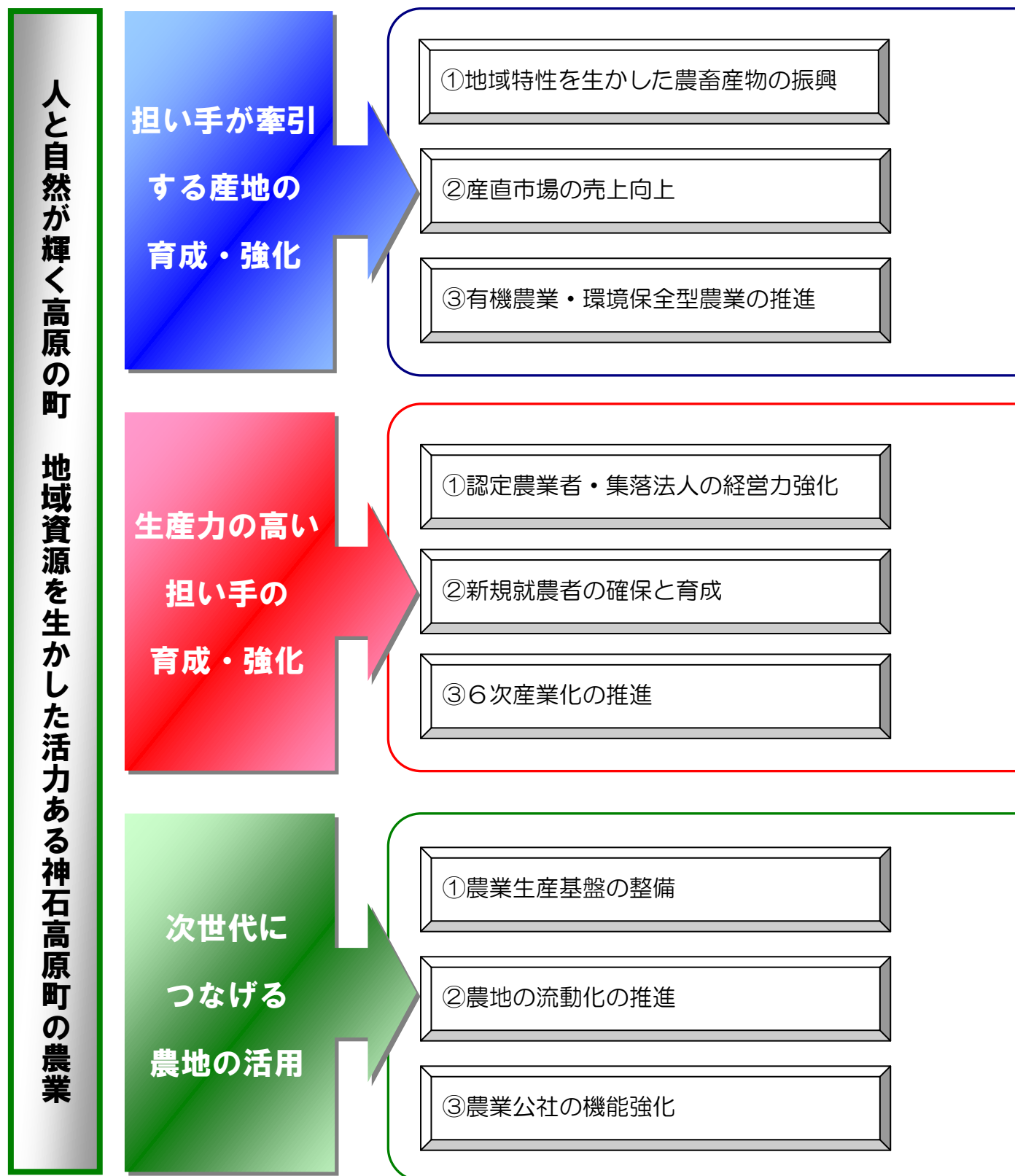
基本目標Ⅱ 生産力の高い担い手の育成・強化

認定農業者及び集落法人の経営力を強化するとともに、新規就農者の確保や育成を進め、商工業者等と連携しながら加工品などの6次産業化を推進します。

基本目標Ⅲ 次世代につなげる農地の活用

農業生産基盤の整備や優良農地の確保を図るとともに、耕作放棄地の再生・活用と農業公社の機能強化を図るとともに有害鳥獣被害防止対策を推進し、農地を保全します。

3 ビジョンの施策体系



トマト・ぶどうの振興

和牛の振興

多彩な農産物の振興

食の安全確保

食育の推進



認定農業者・農業法人の育成

集落法人の経営力強化

担い手間の連携強化

新規集落法人設立の加速化

新たな担い手の確保

農・商・工・観・学連携による6次産業化の推進

女性・高齢者が持つ多様な能力の確保



農地の維持と改良整備

耕作放棄地の再生と利用

有害鳥獣被害防止

農地の流動化と荒廃防止

新規就農者への支援



第3章 ビジョンの施策展開と実現に向けた取り組み

基本目標Ⅰ 担い手が牽引する産地の育成・強化

(1) 地域特性を生かした園芸作物と和牛の振興

□ トマト・ぶどうの振興

- ▶ 認定農業者が核となり小規模団地整備の導入によるトマト産地の拡大
規模拡大による経営安定と市場への販売促進による神石高原(豊)トマトのブランド力強化
- ▶ 集落法人が牽引するぶどうブランドの確立
集落法人や専作法人を中心とした栽培面積と生産量の拡大
- ▶ 農業公社と農協等の連携による就農者育成, 就農システムの構築
技術の修得, 農地の確保とマッチングを一元的に取組む営農開始サポート体制の構築

□ 和牛の振興

- ▶ 地域内一貫生産・直販を行う流通体系の構築
町内産肥育素牛の導入促進による一貫生産と直販モデルの促進によるブランド化の推進

(2) 産直市場の売上向上

□ 多彩な農作物の振興

- ▶ 観光客の集客力強化を通じた産直市場の販売力強化
3つの産直市場の経営戦略に基づいた個性化と連携による神石高原イメージの発信と販路拡大
- ▶ 加工新商品開発と新鮮・安全・安心の提供促進
町内人口構造に対応した販売支援体制の構築や商品開発を通じた6次産業化の推進

(3) 有機農業・環境保全型農業の推進

□ 食の安全確保

- ▶ 有機農業, 耕畜連携による資源循環型農業の推進による食の安全確保
自然循環機能の増進による環境負荷の低減を通じ安全で良質な農産物の供給

□ 食育の推進

- ▶ 食育の推進による農産物生産者の意識改革と消費者への理解促進
農業体験や都市農村交流を促進するイベントの開催と産直市場を核とした情報発信

基本目標Ⅱ 生産力の高い担い手の育成・強化

(1) 認定農業者・集落法人の経営力強化

□認定農業者の育成

- ▶生産基盤の整備による規模拡大で安定経営

新たな団地整備や施設の確保と新しい生産技術の導入等による農業所得の向上などの経営力向上

□農業法人の育成

- ▶雇用力、信用力、継承力を高めるための法人化の促進

法人化の推進による雇用の拡大などを通じた農業後継者受け入れ

□集落法人の経営強化

- ▶水田転換等による園芸作物導入による収益力の向上

園芸作物導入促進を通じた水田の畑地化、畑の集積促進による水稻依存経営からの脱却

□担い手間の連携強化

- ▶水田放牧、飼料稲の利活用、堆肥流通などの連携強化

集落法人と拡大が進む畜産経営の連携による地域資源循環と農地の有効活用による低コスト化の推進

(2) 新規就農者の確保・育成

□新規集落法人設立の加速化

- ▶農地の面的な集積と担い手の明確化

集落点検等を通じた対象地域の選定と農地の流動化の推進

□新たな担い手の確保

- ▶新規就農者の確保

新規就農者(個人、企業参入など)が営農可能なサポート体制の強化

未来に向けて持続可能な農業の確立のための油木高校、農業技術大学校との連携強化

- ▶企業参入の促進

他産業から農業への参入を通じた農業生産構造の変革

(3) 6次産業化の推進

□農・商・工・観・学連携による6次産業化の推進

- ▶都市部業者とのマッチングと販路開拓による“地産外消”の推進

道の駅、コンビニ、高校、ホテルの連携強化と産直市場の経営マネジメントによる販路開拓

□女性・高齢者が持つ多様な能力の確保

- ▶加工・新商品開発を通じた多彩な能力の確保と活用

神石高原の顔となる地域の素材を活かした特産品開発と販売

基本目標Ⅲ 次世代につなげる農地の活用

(1) 農業生産基盤の整備

□農地の維持と改良整備

▶未利用地等の有効活用による産地振興

未利用地の確保，造成，施設整備を通じた優良農地と就農者のマッチングの推進と規模拡大の誘導

□耕作放棄地の再生と活用

▶改良整備などを通じた農地の有効活用

改良整備，水田放牧を通じた耕作放棄地の再生と園芸作物導入や水田放牧などの有効活用の促進

□有害鳥獣被害防止

▶有害鳥獣被害防止対策の実施による農業生産活動の活性化

有害鳥獣被害の軽減または未然防止のため，被害防止計画に基づいた地域ぐるみの取り組みによる安心して営農できる環境を確保

(2) 農地の流動化の推進

□農地の流動化と荒廃防止

▶農用地利用改善団体による出し手と受け手の明確化

農地の集積，担い手の育成など推進すべき地域の明確化と農用地利用改善団体の設置促進

▶農地利用集積円滑化団体の機能強化による農地のマッチング

農用地利用改善団体設置地域を対象とした農地の流動化促進

(3) 農業公社の機能強化

□新規就農者への支援

▶研修制度の確立による新規就農者への支援

トマト，ぶどうの研修ほ場確保と研修体系の整備による受入体制の確立

第4章 赤と黒のプロジェクト推進の概要



トマト仙人

担い手を核とした 「神石高原(豊)トマト」の産地拡大

《現状と課題》

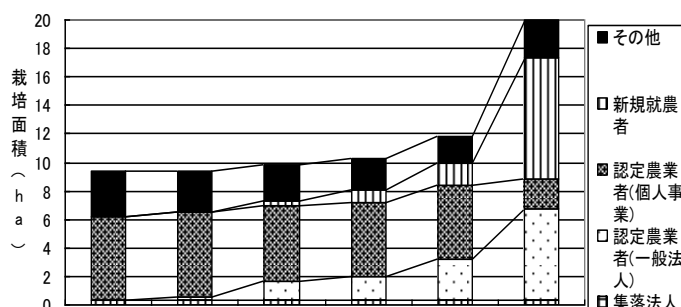
- 昭和55年から産地化に取り組み、県内の主要産地として期待されている。
 - 新規就農者を募集し、12世帯が入植した実績がある。
- ➡
- 生産者の高齢化で将来の産地維持に不安がある。
 - 募集・研修の仕組みが制度として継続していない。

《地域プロジェクトの概要》

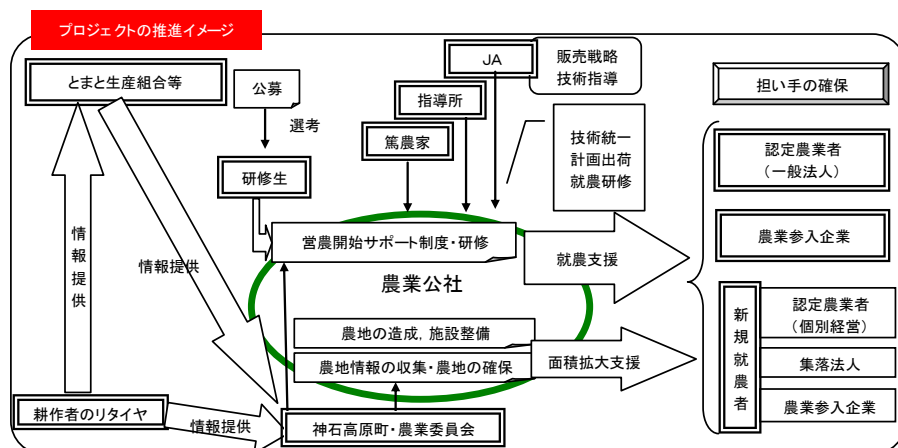
【10年後のめざす姿】

- トマト栽培面積：20ha
- トマトの販売額：5.8億円
- トマトの担い手の目標：

集落法人	1法人	0.3ha
認定農業者	16人	8.5ha
新規就農者	17人	8.5ha



生産力の高い担い手が主体となった産地構造への転換



《目標値》

指 標	現状値 (H22)	目標値				
		H23	H24	H25	H26	H27
トマトの栽培面積(ha)	9.1	9.4	9.4	9.8	10.3	11.8
トマトのJA販売額(億円)	2.7	2.8	2.8	3.1	3.3	3.7
うち担い手の販売額(億円)	2.0	1.9	2.0	2.3	2.6	3.1
トマトの担い手数(経営体数)	16	18	19	20	21	22

「集落法人等が牽引する販売額2億円のピオーネ産地」へ



ピオーネ仙人

《現状と課題》

- ・生産者は193名で平均栽培面積は9aであり、高齢化で今後が懸念される。
- ・産直市でのぶどう販売量は飽和するが、市場向けはまだ出荷量が少なく販売力が弱い。
- ・ぶどう導入集落法人では高評価だが、実績が拡大につなげていない。

《地域プロジェクトの概要》

【10年後のめざす姿】

○ぶどう栽培面積：30ha

○ぶどうの販売額：2億円

○ぶどうの担い手の目標

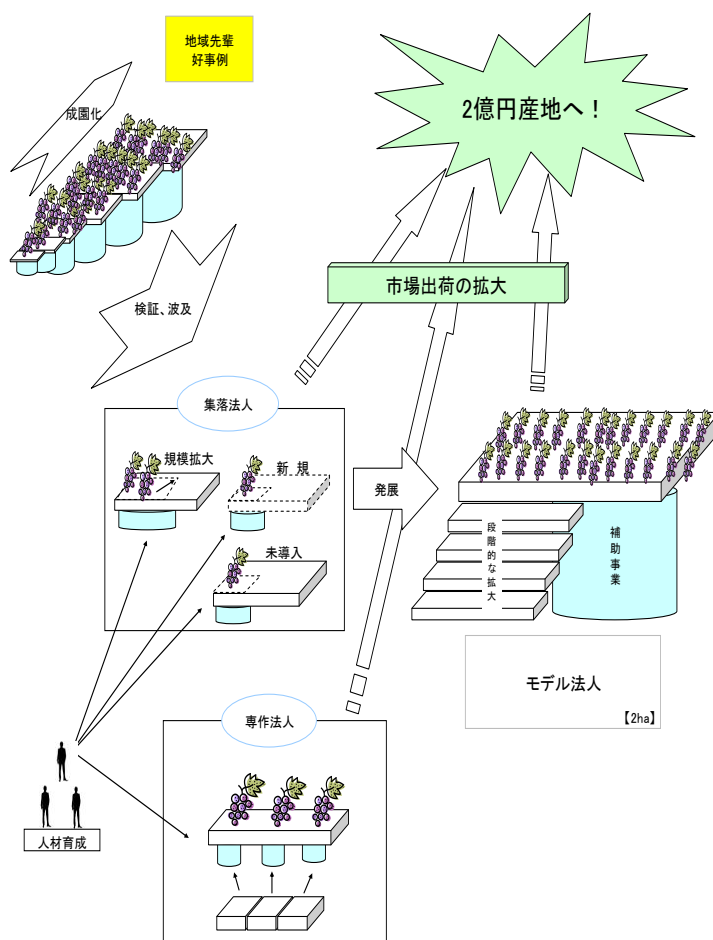
集落法人等 7 法人 7 ha

認定農業者(個人) 1 人 1 ha

認定農業者(法人) 3 法人 2 ha

○その他ぶどう生産者

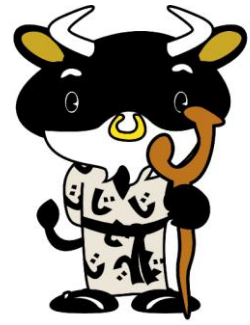
105戸 20ha



《目標値》

指 標	現状値 (H22)	目標値				
		H23	H24	H25	H26	H27
ぶどうの栽培面積(ha)	18.3	18.9	19.4	21.8	22.5	25.0
ぶどうの販売額(億円)	0.75	0.77	0.80	0.85	0.90	1.00
うち担い手の販売額(億円)	0.04	0.05	0.11	0.13	0.15	0.17
ぶどうの担い手数(経営体数)	4	5	5	8	8	11

神石高原和牛の里再構築プロジェクト ～担い手の育成と産地の再構築～

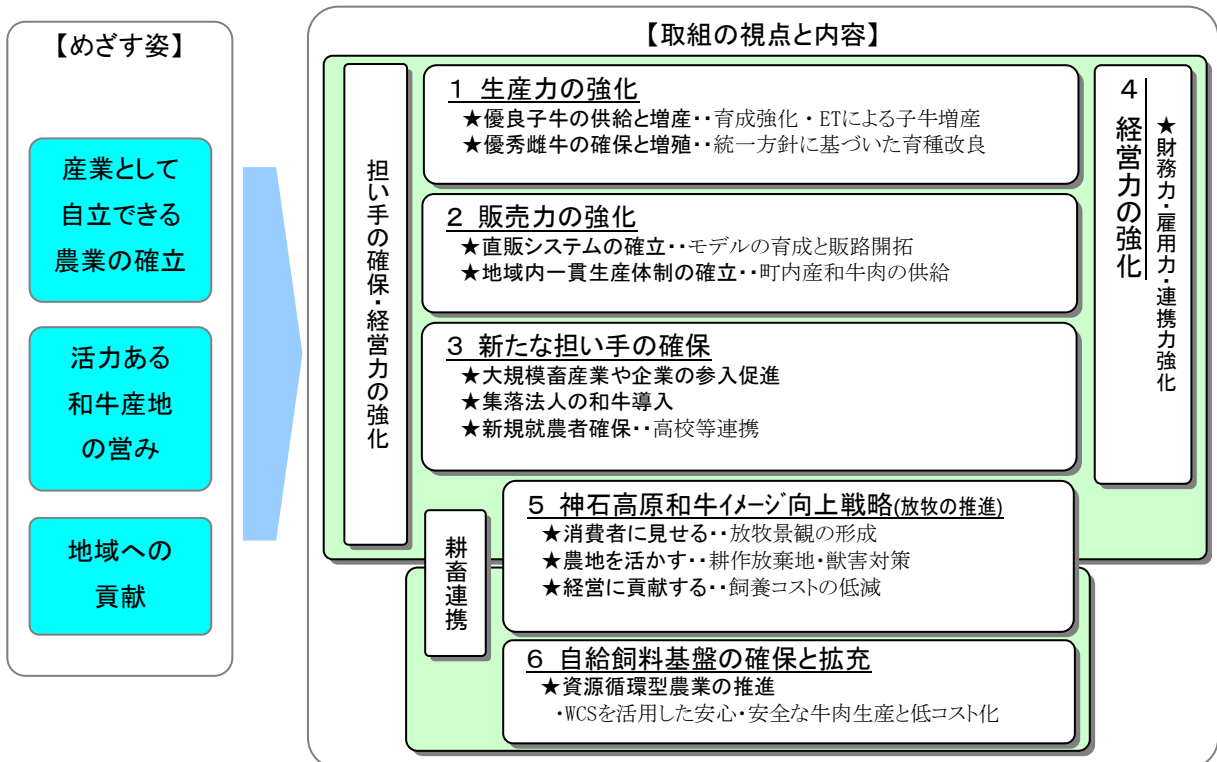


神石牛仙人(通称牛仙人)

《現 状》

- 神石高原町は、古くから和牛の産地であるが、飼養農家の高齢化や後継者不足が著しい。
- 和牛経営は依然として小規模経営が多く、持続的な経営体が少ない。

《地域プロジェクトの概略》



《目標値》

指 標	現 状	目標値	めざす姿
	H22	H27	H32
担い手経営体数	11	18	30
神石高原和牛飼養頭数(頭)	1,443	2,000	3,000
繁殖牛	768	1,000	1,300
肥育牛	675	1,000	1,700
子牛販売価格(対市場平均%)	96	105	110

神石高原町農業ビジョン

平成 24 年 2 月

編集・発行 神石高原町

〒720-1522 広島県神石郡神石高原町小島 2025

TEL 0847-89-3330
